



はたけのみかたの「manma 四季の離乳食」

¥ manma四季の離乳食

420 円 (5か月)

450 円 (7か月)

450 円 (9か月)

460 円 (11か月)

ギフトセット

3,680 円～ 3,980 円 (6個入り)

5,680 円～ 5,979 円 (10個入り)

(価格はすべて税込)

お母さん手づくりのような優しい味。
新鮮な滋賀県産無農薬野菜を使った
安全で安心な離乳食

株式会社はたけのみかた

湖南市夏見 789

TEL.0748-76-4789

お母さんが食べてみて「おいしい」と思える離乳食

滋賀県で無農薬栽培された旬の野菜を材料に、無添加でアレルギー特定原材料を使用せず、野菜の残留放射線量検査もパスした安全で安心な離乳食が「manma 四季の離乳食」です。

ただ安全で安心という離乳食なら既に多くの商品が発売されていますが、同商品のこだわりの一つが「味」。食べた瞬間、素材の風味が感じられる薄味で、まずお母さんが食べてみて「おいしい」と思える味付けを意識して作られています。「赤ちゃんにあげるものですが、最初に食べるのはお母さん。お母さんが食べたときにおいしくなかったら赤ちゃんに食べさせたくないですよ」と、はたけのみかた社長の武村幸奈さん。なるほど、口に入れると、野菜の味がしっかりわかります。



新鮮な旬の野菜にこだわるから、季節ごとに商品ラインナップが変わる

2つ目のこだわりは「新鮮な旬の野菜を使うこと」です。「manma 四季の離乳食」は基本的に米とお野菜で作った“おじゃ”ですが、野菜は一番美味しい時期で体が欲する“旬”のものを材料にしています。春はニンジン、カブ、夏はナス、トマト、トウモロコシ、秋はサツマイモ、カボチャ、冬はホウレンソウ、ダイコン、ニンジン等と四季それぞれ合わせて約10種類の野菜で作られており、シンプルなのでアレンジも自在。

そして3つ目が、赤ちゃんが食べやすいように、「離乳初期（約5・6か月）」「離乳中期（約7・8か月）」「離乳後期（約9～11か月）」「離乳食完了期（約11ヶ月以降）」と月齢に応じた大きさや硬さのものをラインナップ。また中期以降の商品からは、肉、魚が入ったメニューも登場します。これによって肉あるいは魚アレルギーの赤ちゃんに使い分けことができ、たんぱく質の摂取ができることで赤ちゃんの健やかな成長を支えています。



お母さんの立場になって商品開発

こだわりはさらにパッケージにも及び、外出時でもバッグのスペースをとらない軽量でコンパクト。取扱いに便利のように底を広くして自立できる形状です。また、中身のカラフルな色合いが見えるようにしてお菓子か何かと思えるデザイン。外出先でも周りの目を気にせず直接容器から赤ちゃんに食べさせられる気配りがされています。「若いお母さんの多くは市販のベビーフードを使うことに負い目を感じています。“市販品を食べさせて、母親失格ね!”と反感をもつ人もいと聞きます。かえって可愛いものに見え安全安心と自信もあると、お母さんは人目をはばかることもないと思います」と武村さん。ギフトとしての市場も開拓しつつあります。県内の病院や栄養士と協力し、さらに離乳食講習会に何度も参加し、大勢のお母さん方の声を聞いて商品開発を進めています。



故郷・滋賀は、私の強い味方

「はたけのみかた」の社長・武村さんは24歳（取材時）の女性です。京都での大学時代に「地産地消」をテーマとした消費者と農家をつなぐ様々な活動に取り組みました。「無農薬野菜は、形が悪かったり、虫食いがあつたりで市場ではなかなか受け入れられにくい、労多くして報われることの少ない仕事です。それでも農家の人たちが真摯に取り組む姿を目

の当たりなし、このような農家の役に立てるような仕事がしたい」と思ったそうです。

離乳食に着目したのは4回生の春ごろ。開催した野菜市で出会った赤ちゃんを抱いたお母さんが「この子が食べるものは私が選んだものになるけど、たくさんの商品がある中で子どもにとって何が本当に良いのか分からない。子どもをもって食の意識が変わった」という話を思い出し、「このようなお母さんたちの困りごとを解決する商品を野菜で作ることができれば若いママたちのためになるし、売れることで無農薬栽培に取り組む農家も潤うと思った」と、離乳食での起業を決断したのが4回生の秋。生まれ育った滋賀県に会社を構え、3名の男性とともに母親と農家を結ぶ仕事にまい進しています。「滋賀県は多様な生き方ができ、人々がそれを受け入れてくれる。特にこの離乳食は『あ〜、やっぱり滋賀県ならではの離乳食ね』と皆さん言ってくださいます。マザーレイク・環境県、そんなイメージが私の強い味方です」と武村さんは故郷・滋賀県について語ります。

